

電事連会長 定例会見要旨
(2011年9月16日)

会長の八木でございます。8月はお休みでしたので2ヵ月ぶりの会見となります。どうぞよろしくお願いいたします。

本日私からは、「この夏の電力需給」ならびに「再生可能エネルギー固定価格買取制度の導入と電力業界の取り組み」の2点について申し上げます。

1. この夏の電力需給

最初に、この夏の電力需給についてご報告いたします。[資料1](#)をご覧ください。

左上のグラフが示しておりますとおり、7・8月を通じ、最高気温は大きく変動いたしました。平均いたしますと、記録的な猛暑となった前年は下回ったものの、平年を上回る結果となっております。

一方、この夏の10社計の最大電力は、8月10日に1億5,659万kWを記録いたしております。最高気温が前年並みだった(日最高気温; 34.9、昨夏; 35.2)にもかかわらず、昨年より約2,100万kW、12%も下回っております。

各社別に見ましても、左下の表に記載しておりますとおり、使用制限令が発動された東北電力と東京電力は約2割、その他も多くの社では1割程度前年の記録を下回っております。

詳しい分析はまだ終わっておりませんが、最大電力が大幅に減少した一番の要因は、産業界やご家庭など多くの皆さまに懸命に取り組んでいただいた節電のおかげであると考えております。

実際にどのくらいの引下げ効果があったかについては、一概に申し上げることはできませんが、仮に節電が行われず、昨年並みの最大電力(1億7,775万kW)が発生していれば、供給力は360万kW以上ショートしていたことになり、大変厳しい需給バランスであったと考えております。

皆さまには大変なご迷惑をおかけいたしました。皆さまのご協力のおかげで、ここまで何とかこの夏の電力不足を乗り切ることができております。

改めて、電事連会長として、産業界をはじめ国民の皆さまに、心より感謝申し上げます。

そのほか、この夏は、7月下旬に新潟・福島記録的豪雨がございまして100万kWもの水力発電所が停止したり、複数の火力発電所が設備トラブルで停止して、供給面で少しヒヤリとする厳しい場面も何度か経験いたしました。

これらにつきましても、電力会社間で応援融通を行い、何とか事なきを得ております。

次に、冬の需給見通しについてであります。現在、電力各社は全力を挙げて原子力プラントの運転再開に取り組むとともに、火力・水力の補修時期の調整等による供給力の確保に最大限の努力を尽くしているところでございます。

仮に、原子力プラントの運転再開が見込めず、現在運転している11基が順次定期検査に入ってまいりますと、年明けには運転中のプラントは6基(562.4万kW)まで減少してしまい、原子力発電の供給力は、今年の夏(15基・1,323万kW)より、さらに760万kWも減ることになります。

右下のグラフで説明しておりますとおり、今年の1月には、この夏の最大電力を上回る1億5,726万kWを記録しております。

また、冬のピーク需要は、夏とは違って夕方から夜にかけて長時間にわたって続くことが多いため、安定供給を確保するには、電力供給のベースを担う原子力発電が果たす役割は極めて大きいものがあります。

私どもは、国からのご指示に基づいてストレステストを適切に実施し、なるべく早くご報告してまいりたいと考えております。

国におかれましても、運転再開に向けたご判断を迅速にさせていただくと同時に、立地地域のご理解が得られるよう丁寧な説明をお願いいたしたいと考えております。

2．再生可能エネルギー買取法成立と電力業界の取り組み

次に、先月末に「再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」が成立いたしました。私ども電力業界の今後の取り組みについて申し上げます。

今回の法律は、再生可能エネルギー導入を加速させるために大変重要であり、私ども電力業界も積極的に協力してまいりたいと思っております。

一方で、電力多消費産業のサーチャージが減免されることや、買取価格についても、再生可能エネルギー発電事業者の利潤に配慮をすることなどが盛り込まれています。

負担をお願いするお客さまの間で不公平感が生じないように、国は責任をもって、その目的や内容についてご説明いただくと同時に、減免の対象範囲や対象事業者の認定等についてもしっかりと行っていただくようお願いいたします。

私ども電気事業者は、わが国のエネルギー自給率の向上や地球温暖化対策

の観点から、再生可能エネルギーは大切なエネルギー源と考えております。

[資料2](#)にありますとおり、9月7日には、関西電力の「堺太陽光発電所」の全設備が営業運転を開始いたしましたが、電力各社ではすでに9地点・3万kWのメガソーラーが営業運転を行っています。

今後とも、自社設備として、こうしたメガソーラーの拡大に加え、風力発電やバイオマス燃料の混焼、地熱発電にも前向きに取り組んでまいります。

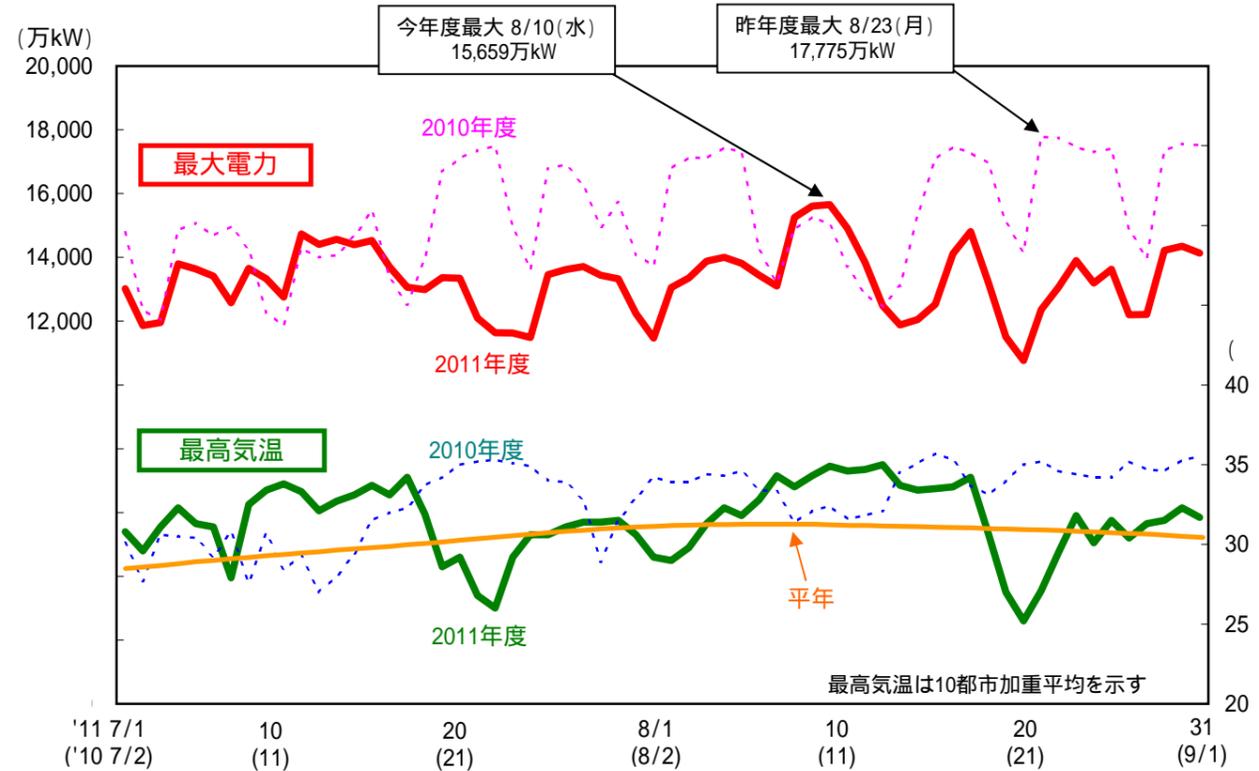
さらには、再生可能エネルギーが電力系統に大量に接続された場合に備えて、電気の品質や安定供給に影響を及ぼさない制御システムの開発を業界を挙げて早急に進めてまいる所存でございます。

私からは以上です。

以 上

今夏(7月~8月)の電力需給について

1. 10社最大電力と最高気温の変化(7月~8月)

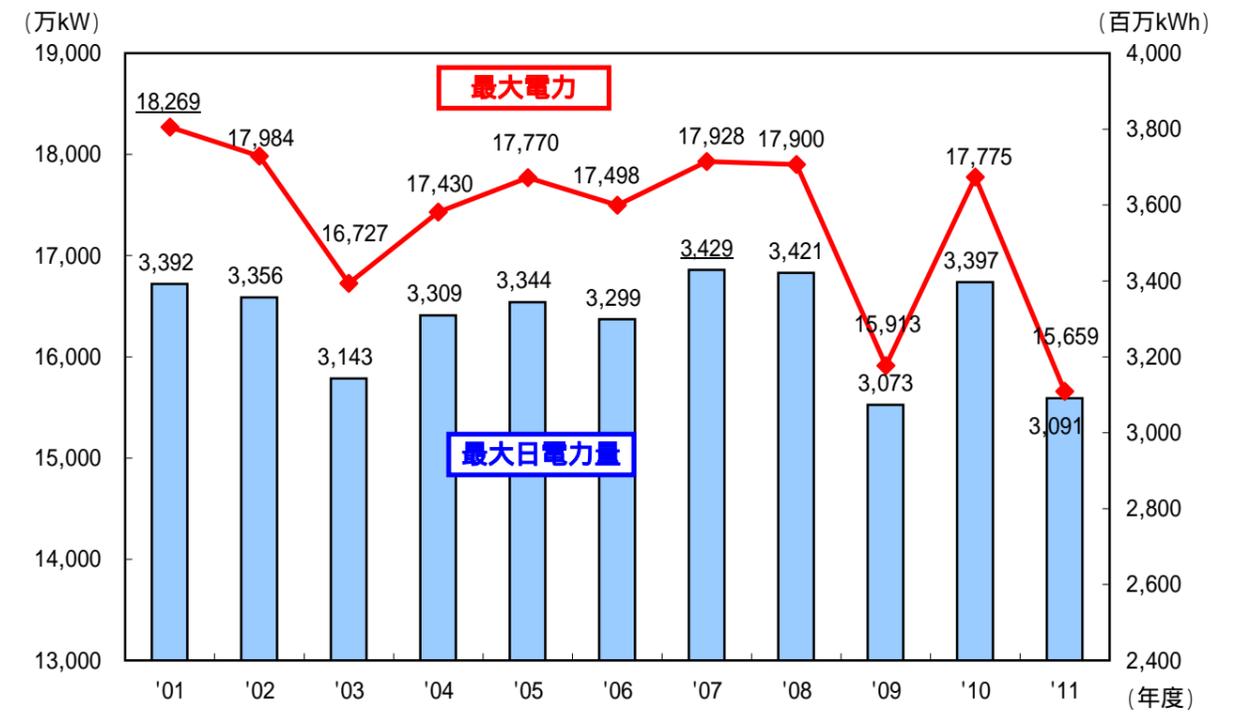


2. 今夏の各社電力需要実績(発電端)

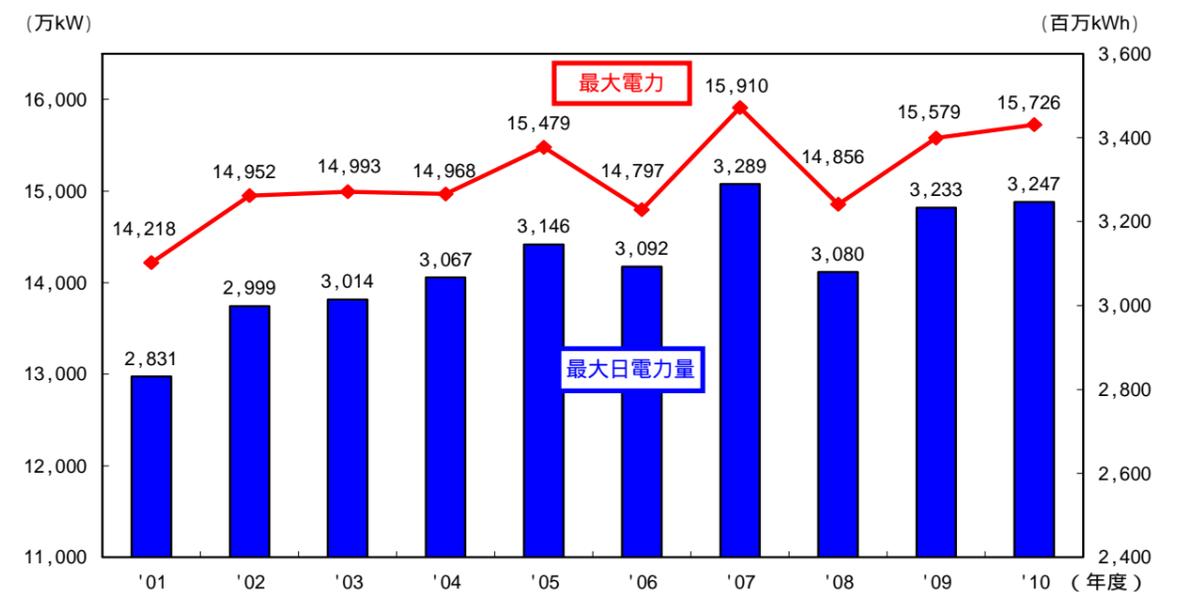
会社名	最大電力(万kW)				最大日電力量(万kWh)		
	発生日	最高気温	発生日時	前年比(%)	発生日	前年比(%)	
北海道	483	33.8 , +1.3	8/11 12時	95.4	10,006	8/11	95.9
東北	1,246	32.0 , 0.6	8/9 15時	80.0	24,940	8/10	83.0
東京	4,922	36.1 , +0.4	8/18 15時	82.0	97,468	8/10	85.4
中部	2,520	36.0 , +0.4	8/10 15時	93.0	47,900	8/10	94.9
北陸	533	34.9 , 2.7	8/9 15時	93.1	10,357	8/10	93.3
関西	2,784	35.6 , 1.0	8/9 15時	90.0	54,112	8/9	91.8
中国	1,083	34.1 , 2.2	8/9 15時	90.2	21,091	8/9	91.1
四国	544	34.9 , 0.0	8/9 15時	91.2	10,644	8/9	93.2
九州	1,535	33.3 , 3.4	8/30 17時	87.7	30,464	8/9	90.2
沖縄	144	31.9 , +0.5	7/22 17時	97.4	2,970	7/20	96.1
10社計	15,659	34.9 , 0.3	8/10 15時	88.1	309,142	8/10	91.0

気温は、各社は「本店所在地の日最高気温」と「前年差」、10社計は「10都市加重平均最高気温」と「前年差」
10社計の最大電力が発生した8月10日の供給力は1億7,411万kW(予備率11.2%)

3. 10社最大電力と最大日電力量の推移



<参考> 冬季の10社最大電力と最大日電力量の推移



再生可能エネルギー導入に向けた電気事業者の取り組みについて

1. 電力会社によるメガソーラー計画、風力発電の導入状況

電気事業者は、2020年度までに全国約30地点で約14万kWのメガソーラー発電所を建設する「メガソーラー発電」計画を公表し、22地点、合計約10万kWについては、具体的な計画を公表している。これまで、9地点、約3万kWが運転開始している。
電気事業用風力発電設備は6社9地点。認可最大出力合計は約3.2万kW。

計画公表済のメガソーラー発電所(2011年9月16日現在)

電力	地点数	概算導入量(千kW)	既運開量(千kW)	運転開始時期	備考
北海道	1	1	1	2011.6	伊達ソーラー発電所
東北	3	1.5		2011年度(1)	八戸火力発電所(青森県)構内に建設
		2		2011年度(1)	仙台火力発電所(宮城県)構内に建設
		1		2013年度(1)	原町火力発電所(福島県)構内に建設
東京	3	7	7	2011.8	浮島太陽光発電所
		13		2011年度	神奈川県川崎市に建設(自社所有地)
		10		2011年度	山梨県甲府市に建設(山梨県所有地)
中部	3	7.5		2011年度	武豊火力発電所(愛知県)構内に建設
		1	1	2011.1	メガソーラーいいた
		8		2014年度	静岡県静岡市に建設(自社所有地)
北陸	4	1	1	2011.3	志賀太陽光発電所
		1	1	2011.4	富山太陽光発電所
		1		2012年度	石川県珠洲市に建設(自社所有地・珠洲市所有地)
関西	2	10	10	2011.9(2)	堺太陽光発電所
		18		未定	大阪府堺市に建設(シャープとJV)
中国	1	3		2011年度	広島県福山市に建設(自社所有地)
四国	1	4.3(3)	2	2010.12	松山太陽光発電所の一部が運転開始
九州	2	3	3	2010.11	メガソーラー大牟田発電所
		3		2013年度	長崎県大村市に建設(発電所跡地)
沖縄	2	4	4	2010.10	宮古島メガソーラー実証研究設備
		1		2011年度	沖縄県名護市に建設(名護市所有地)
計	22	102.3	30		

1:平成22年度供給計画記載
2:2010年10月に一部運転開始
3:2020年度までに4.3千kW全て運転開始予定

電気事業用風力発電設備(2011年8月末現在)

電力	発電所名	認可最大出力(千kW)	運転開始時期
東京	八丈島風力	0.5	2000年3月
中部	御前崎風力	22	2011年1月(1)
北陸	碓石ヶ峰風力	0.6	2000年3月(2)
	輪島風力	3	2002年4月(2)
	国見岳風力	1.8	2002年12月(2)
四国	室戸風力	0.3	2003年3月
九州	野間岬ウィンドパーク	3	2003年3月
	甌島(こしきじま)風力	0.25	2003年3月
沖縄	南大東可倒式風力	0.49	2011年2月

1:2010年10月に一部運転開始
2:北陸電力は2010年4月、石川県より「碓石ヶ峰風力」「輪島風力」、福井県より「国見岳風力」を譲受

<伊達ソーラー発電所>
【北海道電力】



<堺太陽光発電所>
【関西電力】



<御前崎風力>
【中部電力】



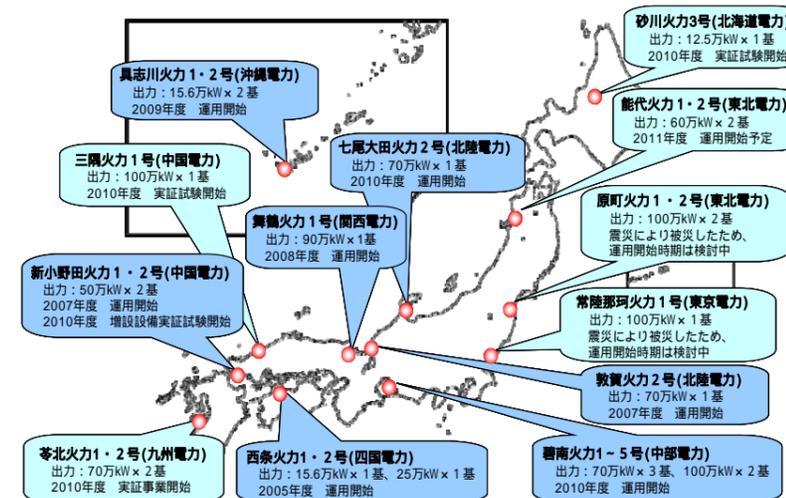
<南大東可倒式風力>
【沖縄電力】



2. バイオマス燃料の導入状況、電力各社の地熱発電所

電力各社においては、ボイラー等の設備面で可能な範囲(2~3%)で、石炭火力におけるバイオマスの混焼を実施・計画中(10電力会社の石炭火力24箇所中13箇所)。
電力各社では、自然環境との調和を図りながら、11箇所(出力計48.91万kW)で地熱発電を行っている。

電力会社の石炭火力におけるバイオマス混焼



電力会社の地熱発電所

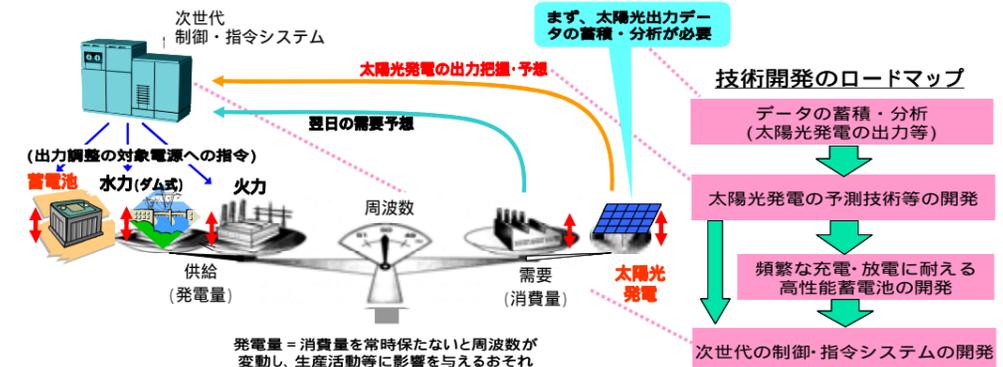
電力	発電所名	所在地	出力(千kW)
北海道	森	北海道	50
東北	葛根田	1	岩手 50
		2	岩手 30
	上の岱	秋田	28.8
	澄川	秋田	50
東京	柳津西山	福島	65
	八丈島	東京	3.3
九州	大岳	大分	12.5
	八丁原	1	大分 55
		2	大分 55
	ハイツ	大分	2
	滝上	大分	27.5
	山川	鹿児島	30
	大霧	鹿児島	30

(2011年7月末現在)

3. 次世代の制御・指令システムの開発

新たに加わる太陽光や風力発電の変動に対応するため、蓄電池を組み合わせた新たな制御・指令システムの開発・導入が必要。
世界最先端の取り組みであり、送配電線のネットワークと既存電源が一体となったシステム作りと運用が必要。

次世代の制御・指令システムのイメージ



<参考> 太陽光発電の出力変動に関する研究

